
Fantasy Story

カケル

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Fantasy Story

【Nコード】

N1958BA

【作者名】

カケル

【あらすじ】

とある人間の死を伝えに來た陽気で軽い神様と後数分で死ぬ人間君を転生してあげよう、渡されたのはタッチパネル。この世界にもう一度転生するもよし、異世界で新たな人生の幕を上げるのもよし、決めるのはあなたです。

異世界で無双するチート主人公ストーリー（笑）

第1話・ぼくはしにました。 (前書き)

なんでもあります。

第1話・ぼくはしにました。

回りは天井も床も壁も何も無い。

こういう言い方のほうがいいのか？上も下も右も左も何も無い真っ白な空間に自分は居る。

何故この空間に居るのかは分からない、というか知らない。

「・・・誰かいませんか？」

少し大きく声を上げてみた・・・しかし返事はないただの空間のようだ。

おいおいおい！マジで誰も居ないのか？急にこんな真っ白な空間に・・・。

「なんだあれは？」

目の前に大きな光の球体が現れて大きく光りだした、眼に優しい光だ。

「いやゝごめんごめん、急にこんな空間に呼び出されたら誰でも驚くね！」

あはははと笑いながら話してる。

白いなんかフワフワした服を着た髪の長い中性的な顔を持った人らしき生物がいた。

「えゝと・・・あの・・・此処は何処ですか？」

「え？あ？此処？「ただの空間」だよ？」

「いや・・・「ただの空間」って言われても・・・専門用語とかですか？」

「違うよ？そのままの意味だよ、僕は神様で、君をこの空間に呼んだのさ！」

「何の神様ですか？」

「創造神！」

「・・・創造神ってなんだったけ。」

「この世界を創った神様さ！」

「……心を読まないでください」

マジで神様なんていたんだ……

「すごいでしょっ！ぶいぶい」

創造神とやらの神様が右手でピースサインを作ってどや顔をしてくる

「いや……だから心読まないでください」

「うふふふ、僕がこの空間に君を呼んだ理由……教えてほしい？」

「焦らさないでください」

「じゃあその敬語やめてね」

「うっいわかりやしたあ」

「急に軽くなっただね」

敬語を使うなと言ったのはそっちだぞ？（笑）

「まあ、まず簡単に僕が神様って言う証明をしなくちゃね。」

僕は6代目創造神 月詠^{ツクヨミ} この世界を創ったのは最初の創造神・

人間で言うひいおじいさんかな？そして人間はビッグバンって言うけどあれはひいおじいちゃんが

力を使って創造したんだよ、そして僕のおじいちゃんを創ってこの地球や他の惑星を創造したんだよ」

「6代目って事は他にも？」

すごいな、神様って長生きっていうか永遠の命とかなのに6代って「そして僕のお父さんが今の生き物の「元」をこの惑星に創り落としたんだ」

「けどそれじゃあ神様を含めた4代しか続いて……」

ああーそう言う事か、姉とか兄とか

「うん、そうだよ僕のお姉ちゃんやお兄ちゃんが他の世界……いわゆる異世界を創ったんだよ」

またどや顔ピースしてますよこの神

「まあこんなところあんまり長居したくないから僕の部屋に来て」

そう言っていると目の前に大きな扉があった、しかノブが無い

「開け……」

「ゴマ？」

ズウウウウンという重い音をたてながら大きな扉が開いた

「ちよつと」言わないでよ」

ちよつと怒っているが俺が言つて開いた理由が分からない、まあいいか。

「ここが僕の部屋だよ」

そこは畳12畳分ぐらいの結構広い部屋だった。

そこにタワー型のパソコンや42型液晶テレビにDVDプレイヤー、大型のゲーム機や小型のポータブルゲーム機、ウォークマン、携帯漫画ラノベや大きなお友達が持っている薄い本まで置いてある部屋だった。

「座つて座つて、お茶は後で出すね」

座椅子が何時の間にか用意されていた

「なんだかスゴイ部屋ですね」

「ちよつと」女の子の部屋ジロジロ見なあゝい」

あ……女の方でしたか、面目ないって……そうじゃないわああああ！なんだ此処は！

「窓の外見ていいですか？」

「うん、いいよ」

そうやって立ち上がった俺は窓の外を見た、なんだか知っているような家々があちらこちらと並んでいる

そして最も注目したのはあの屋根の紅い家だ、窓からじゃあまり見えないがあ窓の位置そして玄関などが見える、そして自分の自転車が置いてある。

確実に俺が住んでいる家で俺の部屋の窓だった、そしてその部屋の窓の位置の奥にいて椅子に座っている「俺」が見えたのだ。

「なんだよ……あれ」

動揺しているのだ、さっきの謎の空間でも少し動揺していたが今の

はもつと違つ、今、現実で起きている事の「意味」が分からないのだ。

「あゝあれ？僕の目の前にいる君の実体っていうやつ」

は？実体？何がなんだかサッパリだ、言ってる事が分からない、じやあ俺なんだ？魂とかか？

「うん、そうだよ」

「えっ？何を言ってるのか・・・」

「簡単に説明するよ、僕は創造神だ、人を創ることは容易い、人の運命は決める事も出来る、けど一度決めた運命を変更する事は出来ない。

人を創造したら「元」となる母親の身体に入れる、そしたら赤ん坊として生まれ、決められた運命という名のレールの上を歩く事となる。

もし、僕が人の運命を操れるなら君は此処に居ない、理由は簡単だよ愛着を持った人間の運命を捻じ曲げて死を回避させられる事が出来る、しかしそれはやってはいけない事なんだ、けれどこれは神の問題だから理由は言えない。それに君を此処に呼んだ理由まだ言つて無かつたね

僕は君が僕の家の前に住んでいる住人とは知っている、それに君の運命も。

人間の1日は長い、だからさっきまで君がしていた事を簡潔に言うよ。

君は学生カバンを肩にかけ「此処は本当に人が少ない」と言いながら道を歩いていた、そして家に帰りブレザーの上だけを脱いだ、そしてパソコンの電源入れた、椅子に座り荷物整理をしていた。

そこで僕が創つた「ただの空間」に放り込まれた。」

「ど・・・どうして俺なんかを？」

「僕は人の運命ややってきた事が見える、君の名前や年齢当て、最期はどうやって死ぬかを教えてあげよう」

「何故俺なんかが選ばれたんだ？」

「簡単だよ、ただ家の前に住んでいる住人が後数分で命を落とす事に気づいたからさ」

「俺が？何で死ぬんだ？」

「人間の死期なんて僕には丸見え、さあ、話の続きだよ。」

君の名前は 川田翔 かわたかける 年齢17歳 誕生日は7月の10日だね

君の最期は家に入った強盗に背中を刺されて出血多量で死亡、死亡時間は……」

「もういい、もう話さないでくれ」

すこし啞然としている、強盗？そんなヤツが何故家を？

「しかし、君は運がいいな」

何故？殺されて運がいい？死んで喜ぶ奴がお前は？

「違つよ、君は本当に運がいい、死ぬのは嫌と思うが君は好きなように輪廻転生が出来るんだよ？」

なんだ何言ってるんだお前は

「だから君の好きなように輪廻転生させてあげるし特殊能力もおまけしてあげるよ？」

り……輪廻転生？生まれ変わるって意味か？

「うん、そうだよ」

「と言う事は俺は好きなように生まれ変わる事ができるのか」

「だからそう言ったじゃん」

マジかよ……じゃあ異世界とか行けるのか？マジでかよ

「あゝ君後1分で死ぬは、少し痛みを感じるかもしれないけど我慢ね」

……え？あと1分？

「10、9、8、7、6、5、……」

「っがつあ！??」

何か、背中に冷たい鋭利な刃物が突き刺さる感覚、最初は痛くないが刃物が深く刺さっていく事に痛みを

感じる、スゴイいたい、ものすごくいたい、メツチャ痛い、パネエ

わぁ・・・マジで。

「ハイ！後数十分で君はお亡くなりになりますう！」

そっいいながらタッチパネルを渡された、そこにはこう書いてあった。

転生したいところ この世界・異世界

言語設定（異世界限定） 異世界の言語・自分に分かる言語

どのような異世界 「

」

名前

年齢

誕生日

容姿

持ち物（年齢を10歳以上にした場合）

・
・
・
・
・
・
・
・
・

特殊能力

・

・

・

・

・

「
・
・
・
・
なんだこれ？」

第1話・ぼくはしにました。（後書き）

誤字脱字などがあればコメントヨロシクです。

主人公の名前は決めるのが面倒なので川田翔を統一します。

他のキャラクターの名前は毎回適当です、異世界って事は外人っぽい名前が多いな

前回は打ち切りをしましたが今回はありません。

結構長いストーリーかもしれませんが今回もよろしくお願いします

第2話・拳銃とか持たせてください。(前書き)

色々カオスです。

第2話・拳銃とか持たせてください。

・
・
・
・
やつと終ったあ
」

そう、俺は創造神『月詠』に渡されたタッチパネルを操作して「設定」といわれる物をしていた。

大体はこんな感じ

[illegible]

転生したいところ 異世界

言語設定（異世界限定） 自分に分かる言語

どのような異世界 「科学と魔法があり、RPG風で大きなモンスターを狩るゲームのような世界、しかし科学は発達しているがこの世界よりかは少しずれている感じ」

名前
川田翔

年齡 17歲

誕生日 7月10日

容姿 今と変わらない

持ち物（年齢を10歳以上にした場合）

- ベレッタM92F×2

- ・デザートイーグル×2

・イサカM37

- ・イングラムM11x2
- ・H&K PSG-1
- ・バレットM82A1
- ・RPG-7
- ・手榴弾
- ・閃光手榴弾
- ・焼夷手榴弾
- ・太刀 紅蒼（特殊機能あり）
- ・アーミーナイフx2（特殊機能あり）
- ・無限のウエストポーチ

特殊能力

- ・火・水・木・金・土・鉄・雷・風を操る能力

[illegible]

なんか色々危ない物が混ざっているが異世界で生き抜く為には多少の命は消えても問題ないだろ（笑）

「あ？出来た？どれどれ？」

「……スゴイが見してるよこれ、いや、分かりますよ？色々おかしなことが書いているのは」

でもそこまでがん見する必要は無いと思います。

「この拳銃とかにさ、無限って書いてるけど、弾が無限って意味？、後手榴弾とか」

ああ、やはりそこか、やっぱりその質問がくるか。

「ええ、その通りです、ただの拳銃とかじゃなくて念じたら出現する特殊な銃で、それに太刀にも色々書いてあるでしょう？、お願いしたい太刀は柄（持つところ）は蒼色、鞘が紅色でお願いします。」

特殊技能というのは

- ・折れない
- ・溶けない
- ・錆びない
- ・刃毀れしない
- ・切れないものは無い

これ全部の機能付きでアーミーナイフも同じようにしてください」

「ねえ、この無限のウエストポーチって何？」

「何でも入れて、いつでも取り出せて、ポーチ内は時間という概念が無い特殊なポーチ」

「あなたはゲームの世界じゃなくて異世界に行くんだよ？」

「いや、モノを持ち運び簡単に出来たらいいじゃにですか！」

「・・・まあいいわ、僕に創れ無いものは無い」

神様は溜息混じりに言い放った。

「そつえばさつき『ゲームの世界に・・・』って行ってたけど行けるの？」

「まあ、その世界を創れば行く事は可能、この前好きな作家が死んじゃったから行きたい世界ある？って聞いたら『この漫画の世界はいいですか？』って言われたの、だから行かせてあげちゃった」

この神様は器が大きいですな、行きたい世界を創り、行かせてあげるなんて・・・まあ俺もだけど。

「じゃあ、こつち来て」

手をプラプラと振り、スタスタ歩いていった、というかほって行かないでください。

少し歩くと目の前に木製の扉が見えた、扉に紙が貼っていた、「用があるならノックしろしないとブチ殺す」と書いてある……なんか怖いな。

コンコンと軽くノックすると……

「入ってもいいよ」

少し低い声が聞こえたが確実に女性の声だ。

「お姉ちゃん入るよ」

神様が中に入っていく、というか俺……入っていいのかな？

「翔くんも入った入った！」

「し……失礼します……」

ぎこちない動きで扉を開けて入る。

「は……初めまして……川田翔です」

「こんにちは！私はこの子の姉で日照^{ヒデリ}といいます！ヨロシクね？」

「あ……よろしく願います」

「もおう！お姉ちゃん！ゲームしながらお話しないで！」

「ええ……！？いじゃん！すぐ終るし……」

あ、このゲーム知ってる……確か「イケてる俺たちと恋しないか？」っていう女性向けのゲームだ、

オタの友達にやらされたっけ？最後何回かハーレムルート（笑）に行った記憶がある。

この神様もあと少しで最高のエンディングか最悪のハーレムルート（笑）に行くか分かる。

「お前の事が好きだ！」

選択肢は3つだ、

・「私も！」　ハッピーエンド

・「他に好きな人がいるの・・・」　バッドエンド

・「私は皆が好き！」　ハーレムエンド（笑）

という結果（笑）マジでこういうゲームじゃなくて銃撃戦があるゲームや某人工生物兵器と戦うゲームの方が好きだな・・・俺は。
「僕もそういう銃が出るゲーム好きだよ？」

・・・神様が心を読んでいたのだ、というか勝手に読まないで。

「へえ〜やっぱハーレムエンドがいいからこれか！」

・・・ハーレムエンド？俺は全部試したがどれでもよかった。

「あゝ終った〜！で・・・何の用？」

「お姉ちゃん！この人間は転生者！異世界がいいって書いてあるからいいところ探してあげて！」

この話が終ると数分間神様のお姉さん、『日照』さんに説明を受けた、簡潔にまとめると、

今から眠ると俺が言った異世界についているらしいが場所は特定できないらしい、そしてむやみやたらに異世界から来たって話はしない方がいいと、何でだ？頭おかしいと思われるのか？

「眼を閉じると急に眠気が襲うか・・・」

ずっと眼を閉じると本当に眠気に襲われた、それと気分がグワングワンと揺れるような感覚と眠気

正直気持ち悪い、ああ・・・吐きそう。

なんだか今は気分がいい、さっき殺されたなんて感覚は無い。

異世界なんて漫画とかゲームとかでしか見たこと無い、もしかした

ら王様とかがいて

『娘のために〇〇の薬草を取ってきてくれ！とかクエストがありそう（笑）』

どついう世界だろう、モンスター狩れるかな？竜とか狩れるかな？

第2話・拳銃とか持たせてください。（後書き）

短いです、閲覧ありがとうございます。

次回から異世界編ですRPG風の世界観で巨大モンスター狩る作品に憧れていました（笑）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1958ba/>

Fantasy Story

2012年1月5日20時48分発行